

## 2026年4月幹事会 企画幹事資料

### 1. 2026年9月例会の準備状況

開催日：2026年9月18日（金）

場所：日本薬学長井記念ホール（東京）現地開催

一般講演：株式会社新日本科学および株式会社住化分析センターより、今回は講演見送りとの連絡。次回講演可能時期は、株式会社新日本科学が2027年9月、株式会社住化分析センターが2027年4月。次候補のゼリア新薬工業株式会社については、講演可否につき社内確認中であり、5月中に回答予定。株式会社ジェノメンブレンへはリマインドメール送付済み。

特別講演：一般講演の内容と関連した先生を選定予定。

講演	演題・所属・氏名	備考
一般公演	1) 13:30～14:15 「未定」(仮)	未 演題 未 演者 未 ご略歴
	株式会社ジェノメンブレン	未 依頼書
	2) 14:15～15:00 「機能性ディスペプシア治療薬アコチアミドの胃組織分布に関与するトランスポーターの推定」(仮)	済 演題 未 演者 未 ご略歴
	ゼリア新薬工業株式会社 吉井 一良 先生	要 依頼書
特別講演	3) 15:15～16:15 「未定」(仮)	未 演題 未 演者
	候補① 高橋 正人 先生、千葉科学大学	未 ご略歴 未 依頼書
司会	サターラ合同会社	

## 2. 例会の依頼状況について

**企業講演の選定状況**：講演者については、一覧リスト順に選定しているものの、演題が難しいとの理由により見送りが続いている状況。現状では、講演可能時期を確認のうえ順番を調整しているが、選定方針について再確認をいたす存じます。

**利益相反取り扱い**：近年、利益相反（COI）の観点から、オープンな学会においては情報開示が必須となるケースが増加傾向。

談話会は原則クローズドな会合であるため、COIの取扱いは各社判断としている。

一方で、プログラムのオープン化を希望する意見もあり、COIの扱いを含めた今後の対応方針について、常任幹事による確認を要する。

### 3. 第49年会（11月）シンポジウムテーマについての報告

開催日：2026年10月29日（木）～30日（金）

場所：クラウンパレス浜松

事務局・担当幹事：千村・藤田（サターラ）、小森・永易常任幹事

\* 本年の年会は、オークラアクティシティホテル浜松からクラウンパレス浜松に会場を変更して開催いたします。  
年会構成案：

#### Day 1 タイムテーブル（10月29日）

時間	時間	セッション
14:00～14:05	5分	開会挨拶
14:05～14:15	10分	会長挨拶
14:15～14:30	15分	企業展示紹介
14:30～15:25	55分	特別講演
15:25～15:50	25分	休憩
15:50～16:35	45分	基調講演
16:35～17:05	30分	一般講演
17:05～17:30	25分	休憩
17:30～18:30	30分	一般講演x2
19:00～21:00	120分	意見交換会

#### Day 2 タイムテーブル（10月30日）

時間	時間	セッション
9:20～10:00	40分	会長講演
10:00～10:50	50分	基調講演
10:50～11:10	20分	休憩
11:10～11:40	5分×6	Showcase（シンポジウム2）
11:40～12:15	35分	一般講演
12:15～13:15	60分	昼食
13:15～15:00	35分×3	一般講演×3
15:00～15:10	10分	休憩
15:10～16:20	35分×2	一般講演×2
16:20～16:30	10分	事務連絡

各テーマの企画書を、以下のとおり案として取りまとめました。

# Day 1 英語 Only Day

薬物動態談話会 第49回年会 10月29日（木）

## 1. タイトル候補

- 案1 「グローバルDMPK研究者視点からのトランスレーショナル薬物動態」  
案2 「DMPKの国際潮流 トランスレーショナル研究から臨床応用への世界的展開」  
案3 「国際共同で拓くトランスレーショナルDMPK」  
案4 「国際的視点から考えるDMPK ○○○」

## 2. 年会の趣旨

本シンポジウムは、薬物動態（DMPK）研究の最新動向を国際的な視点から発信することを目的とした英語専用プログラムです。海外演者を中心に、DMPK分野における先端的な取り組みを紹介し、国内外の研究者との活発な議論の場とします。

## 3. 組織委員・座長（補）

以下の組織委員・座長（補）について候補選定中。残り2名は推薦により選定予定。候補となり得る企業研究者についてご意見を賜りたいです。

#	氏名	所属	備考
1	杉山 先生	—	アカデミア枠
2	Dr. Yan Zhang	Nuvation Bio	アカデミア枠
3			企業枠
4			企業枠

## 4. Day 1 タイムテーブル

Alex先生が翌日帰国予定のため、初日中に東京へ戻るスケジュールを考慮し、休憩時間を通常より多めに設定。

時間	講演時間	セッション	演者
14:00~14:05	5分	開会挨拶	—
14:05~14:15	10分	<b>会長挨拶</b>	玉井先生
14:15~14:30	15分	企業展示紹介	—
14:30~15:25	55分	<b>特別講演</b>	Prof. Aleksandra Galetin (University of Manchester)
15:25~15:50	25分	休憩	—
15:50~18:30		<b>談話会年会スペシャル</b>	
15:50~16:35	45分	<b>基調講演</b>	Prof. Bhagwat Prasad (Cincinnati Children's)
16:35~17:05	30分	<b>一般講演</b>	Dr. Yan Zhang (Nuvation Bio)
17:05~17:30	25分	休憩	—
17:30~18:00	30分	<b>一般講演</b>	土谷 聡耀 先生
18:00~18:30	30分	<b>一般講演</b>	増尾 友佑 先生
19:00~21:00	120分	意見交換会	—

# Day 2 NAMsシンポジウム

薬物動態談話会 第49回年会 10月30日（金）  
NAMsとDMPKの接点：in vitro 革新からヒト予測への展開

## 1. 年会の趣旨

本シンポジウムは、NAMs（New Approach Methodologies：新規アプローチ手法）を薬物動態（DMPK）研究の観点から捉え直すことを目的としています。NAMsはこれまで主として毒性試験の文脈で議論されてきましたが、DMPK研究者にとっても直接的な影響があります。

特にIVIVE（in vitro-in vivo extrapolation）の精度向上、低クリアランス化合物の評価、非CYP代謝経路の予測精度改善、PBPKへの新規入力データの提供など、NAMsはDMPKの中心的課題に直接接続しています。

本シンポジウムはその潮流を受け、DMPK研究者がNAMsを巡る最新の科学的動向と規制環境の変化を広く把握し、同分野の研究者と率直に議論できる場を目指します。

## 2. シンポジウム構成の考え方

DMPKにおけるNAMsの応用領域は広く、IVIVE・薬物代謝・トランスポーター・DILI予測・PBPK統合など、個々のテーマは非常に多岐にわたります。各テーマを独立した講演として羅列するだけでは、聴衆にとって断片的な情報の集積となりかねません。

そこで本シンポジウムでは、「なぜ今NAMsなのか」から「現場でどう活用するか」まで、連続した文脈の中で理解できるよう、以下のストーリーラインに沿って講演を配置しました。

## 3. 組織委員（候補）

組織委員は4～5名を予定しています。アカデミア・企業のバランスを考慮し、以下の候補を選定中です。なお、常任幹事からの選出も可能です。

#	氏名	所属	備考
1	長坂 泰久 先生	アステラス製薬	企業枠
2	楠原 洋之 教授	東京大学	アカデミア枠
3	荒川 大 教授	名古屋市立大学	アカデミア枠
4	篠澤 先生（候補）	武田薬品工業	企業枠
5	田辺三菱製薬 どなたか（候補）	田辺三菱製薬	企業枠

## 4. 演者構成（候補）

#	セッション	演者（候補）	所属	講演切り口
①	基調講演： 規制動向	PMDA / NIHS 代表者 (調整中)	規制当局	NAMsに対するPMDAの現状スタンスと今後の方向性
②	in vitro革新	荒川 大 教授	名古屋市立大学	DMPK評価の現状と課題を概説しつつ、広義のMPS（スフェロイド・organ-on-chip等）を含む最新のin vitro NAMsの取り組みを紹介
③	IVIVE精度 向上①	調整中（候補：吉成先生・高山先生 等）	調整中	非CYP代謝（UGT・AO）のin vitro評価とIVIVEの課題
④	IVIVE精度 向上②	楠原 洋之 教授	東京大学	トランスポーター介在性クリアランスのIVIVEとPBPKへの統合
⑤	PBPK統合・ DILI予測	伊藤 晃成 先生（候補）	千葉大学	in vitro肝毒性データのIVIVE・PBPK統合によるヒトDILIRisk定量予測
⑥	企業における 実装	企業DMPK研究者（調整中）	製薬企業	NAMs由来データの実務活用と社内導入の課題
⑦	企業における 実装	企業DMPK研究者（調整中）	製薬企業	NAMs由来データの実務活用と社内導入の課題

## 5. Day 2 タイムテーブル

時間	講演時間	セッション	演者
9:20～10:00	40分	会長講演	—
10:00～10:50	50分	基調講演（NAMs）	全体像・DMPK研究への期待と展望
10:50～11:10	20分	休憩	—
11:10～11:40	5分 × 6	Showcase（シンポジウム2）	—
11:40～12:15	35分	一般講演（NAMs）	企業DMPK (Microperfusion関連)
12:15～13:15	60分	昼食	—
13:15～15:00	35分 × 3	一般講演（NAMs） × 3	技術：In-Vitro関連
15:00～15:10	10分	休憩	—
15:10～16:20	35分 × 2	一般講演（NAMs） × 2	企業DMPK
16:20～16:30	10分	事務連絡	—

## 6. 審議内容

---

- Day1 の座長候補となる企業研究者様につきまして、幹事会にてご議論のうえ、ご推薦をお願いいたたく存じます。
- Day2 の組織委員候補となり得る先生につきまして、幹事会にてご議論のうえご推薦いただくとともに、併せてその他の先生方についてもご承認の可否をご確認いただきたく存じます。

## 7. 備考・今後の課題

---

- 常任幹事への内容確認・承認を改めて取得する必要がある。
- 組織委員の構成を4月中に確定し、併せて依頼の連絡を行うことを目標とする。
- PMDA / NIHS 代表者および企業 DMPK 研究者については引き続き候補者調整中。
- 代替候補として吉成浩一先生（静岡県立大学）、高山和雄先生（東京科学大学）、降幡知巳先生（東京薬科大学）を検討中。
- 企業演者については、NAMs を実際に社内導入・活用している実績のある方を優先して選定する方針。

以上

	夏セミナー			年会	
	セッション1	セッション2	セッション3	シンポジウム1	シンポジウム2
2019年	薬物間相互作用評価における内因性バイオマーカー研究の最前線	実践に役立つヒト薬物動態予測法の基礎と最前線	創薬における費と代謝物の評価：現状と課題	低分子創薬の可能性を拓く新規創薬ターゲット 加藤将夫先生（金沢大）、中島美紀先生（金沢大）、中川徹也先生（大日本住友） 金井好亮先生（大阪大） 影近弘之先生（東京医科大学）	低分子創薬の動態最適化及びDDS戦略 新間秀一先生（大阪大）、平林英樹先生（武田薬品）、渡邊伸明先生（第一三共） 松本邦夫先生（金沢大） 新間秀一先生（大阪大）
講演	大隈典子先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）、山添康先生（東北大）				
2020年	中止			深化する薬物動態制御技術 大槻純男先生（熊本大）、楠原洋之先生（東京大）、平林英樹先生（武田薬品） 村松慎一先生（自治医大） 伊藤慎吾先生（熊本大）	新技術で切り開く創薬研究の近未来 水口裕之先生（大阪大）、小森高文先生（エーザイ）、長坂泰久先生（アステラス） 水口裕之先生（大阪大）
講演					
2021年	トランスポーター機能のフェンタイプングのための新規ツールの利活用	まずこれだけ！細胞治療の基礎と最前線	企業研究者が対応すべきバイオアナリシスの規制と多様性	難溶性・難吸収性薬物の吸収予測に関する最新の知見 井上勝央先生（東薬大）、菅野清彦先生（立命館）、上林敦先生（アステラス） 山西芳裕先生（九工大） 榎坂章博先生（千葉大）	薬剤誘導性肝障害（DILI）低減に向けた薬物動態の貢献 伊藤見成先生（千葉大）、中川徹也先生（大日本住友製薬） 水口賢司先生（大阪大） 伊藤見成先生（千葉大）
講演	宍合孝広先生（東京医大）、出澤真理先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）				
2022年	AMEDが進める創薬基盤推進研究事業と製薬動態研究ニーズ	医薬品開発における2030年の薬物動態の姿	アンメットメディカルニーズに応える薬物動態研究の動向 一新医療モダリティ時代に対峙するための温故知新的アプローチ	Non-CYP代謝研究の新知見と創薬での活用 中島美紀先生（東薬大）、佐能正剛先生（和歌山医科大）、大西秀一先生（塩野義）、神山信雄先生（アステラス） 深見達基先生（金沢大） 清水万紀子先生（昭和薬科大）	バイオマーカー研究の最前線：探索から活用まで 楠原洋之先生（東京大）、斎藤嘉朗先生（国立衛研）、大石昌代先生（アステラス）、三田市剛先生（第一三共） 楠原洋之先生（東京大） 斎藤嘉朗先生（国立衛研） David Rodrigues（ファイザー）
講演	藤本利夫先生（湘南ヘルスイノベーションパーク）、浦野泰照先生（東大）、杉山雄一先生（城西国際大学）				
2023年	ニューモダリティの組織移行性への壁	トランスレーショナル研究への壁	進化するバイオアナリシスと薬物動態研究への壁	New modalityの薬物動態評価～組織移行性・細胞内分布～ 西川元也先生（東京理科大）、大槻純男先生（熊本大）、平林英樹先生（武田薬品）、岩崎紀彦先生（田辺三菱） 井上貴雄先生（国立衛研）	PBPK モデルの利活用の最新の動向 大谷 壽一先生（慶応大学）、前田和哉先生（北里大学）、渡邊伸明先生（第一三共）、渡邊昌夫先生（住友ファーマ） 菅野清彦先生（立命館大） 青木 康壽（城西国際大学）
講演	宮田亮二郎先生（東京大学）、轟木堅一郎先生（静岡県立大）、杉山雄一先生（城西国際大学）				
2024年	低分子薬剤による新たな標的制御のための薬物動態研究 ～低分子薬剤の基礎と可能性～	中程に到達する薬剤を創出するための薬物動態研究 ～中程移行性の基礎と可能性～	生体内現象を精度高く予測する薬物動態研究 ～M&Sの基礎と可能性～	サイトーシスと中高分子薬の膜輸送 直田みさき先生（PMDA）、苗田啓之先生（JCRファーマ）、渡邊郁剛先生（塩野義）、井上勝央先生（東京薬科大学） 二木史郎先生（京都大学）	Special populationでの動態予測 谷川原祐介先生（慶應義塾大学）、大野能之先生（東京大学）、浅野聡志先生（中外）、辻本景英先生（製薬協）、佐藤洋美先生（千葉大学） 玉井郁巳（金沢大学）、Bhagwat Prasad（Washington State Univ.）、谷川原祐介先生（慶應義塾大学）
講演	古寺哲幸先生（金沢大学）、瀧木理先生（東京大学）、玉井郁巳先生（金沢大学）				
2025年	低分子医薬品の薬物動態研究 ～研究者が押さえておきたい定点と動点～	抗体医薬品の薬物動態研究 ～研究者が押さえておきたい定点と動点～	細胞／細胞外小胞を用いた治療の薬物動態・DDS研究 ～研究者が押さえておきたい定点と動点～	Physiologically Based Biopharmaceutics Modeling (PBPM) 前田和哉先生（北里）、宮松敬先生（中外）、T ycho（Merck）、宇都野信昭（PMDA） 上林敦先生（東京理科）	TPD 森下先生（セルフイー）、井上先生（国立衛研）、大崎先生（アステラス）、今岡先生（第一三共） 江崎先生（愛媛）
講演	平林先生（名古屋市立）、佐藤先生（和歌山県立）、小林先生（協和キリン）、刈部先生（第一三共）、中山先生（佐賀）、後藤先生（武田）、高橋先生（京都）				
	DDI	開発・個別化医療	ツール・評価法	製剤	バイオマーカー
	ヒト予測・種差	モダリティ	DDS	M&S	安全性